

2017年

ホームページへGo!→

スマホで教室便りが見られます



教室だより 5月号

八十八夜

立春から数えて88日目にあたる雑節のひとつ、八十八夜。今年は5月2日が八十八夜です。

日本の大半の地域では、この日から後に霜が降りることはめったになく、農家が霜の被害から解放される目安とされてきた日です。霜は夜の間に降りるので、「八十八日」ではなく「八十八夜」の名がついたといわれています。

八十八夜は初夏の到来を告げる季節の変わり目で、種まきなど農作業の目安とされました。「米」の字を分解すると「八十八」になることから、八十八夜は稲作に従事する人々にとって重要な日とされてきました。

古くから、八十八夜に摘んだお茶の葉は極上とされ、また、八十八と末広がり縁起のよいこの日にお茶を飲むと寿命が延びるといわれてきました。

一年で最初に摘まれる新茶（一番茶）の特長は「爽やかで清々しい香り」にあります。これは、カテキンやカフェインが少なく、旨味、甘みの成分であるアミノ酸（テアニン）が多く含まれているからだそうです。

この時期、普段はコーヒー派の方も、あらためて日本茶の魅力に触れてみられてはいかがでしょうか。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“欲張らない”

子どもは毎日、学校へ行って勉強しています。家庭における学習は、学校でやることを、学校とは違った方法でやってこそ、効果が上がるのです。せっかく学校でやってくれる内容を学校と同じ方法で家でも習わせることは、ムダが多く、子どもも勉強に対して新鮮な意欲を感じなくなってしまうことも多いようです。家庭では必ずしも学校の通りにしようとせず、その子の性格や能力に合った方法で、目標を絞って重点的に学習させることが大切です。

公文式は、学校で習うあれもこれもとは欲張らない学習法です。すべての学習の土台となる「読み・書き・計算」の知的技術は、それぞれの課題を習得するのに必要な練習量の個人差が大きく、それぞれの子どもに必要なだけの練習をしなければ十分な力を保証してあげられません。

公文式は、一人ひとりに必要なその力を定着させながら、先々にいっても安心できるだけの学力を身につけられることを大切にします。

2017年 5月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

本市場教室日□

横割教室日△

保護者の皆様へ

平素は公文式学習にご理解・ご協力を賜り、ありがとうございます。

さて、公文式教室では、下記の通り「5月無料体験学習」を実施いたします。

公文式学習の大きな目的は、子どもたちが自分から進んで学習する力と「高い基礎学力」を身につけること。「自分でできた!」の体験は子どもたちに大きな自信を与えてくれます。新しい教科にチャレンジして、得意な教科を増やしてください。

まだ入会いただいていないご兄弟・姉妹の方がいらっしゃいましたら、ぜひご参加をお待ちしております。また、お知り合いの方へ公文式学習をご紹介いただければ幸いです。

一緒に学習する仲間が子どもたちにとって大きな励みとなります。

★ 5月無料体験学習のご案内 ★

学習期間 5月18日(木)～5月31日(水)

期間中、2週間で計4回、公文式学習を体験していただけます。

費用は無料ですので、お気軽にご参加ください。

*ゆき子の一言コラム

宿題を面倒がる子どもをやる気にさせる一言

「子どもがなかなか宿題をしない」というのは、よくある親の悩みでしょう。イライラを募らせたり、わが子とバトルを繰り返すことなく、うまくやる気を引き出してやるには、どんな言葉をかけてあげるといいのでしょうか。そこで今回は、独自アンケートの結果を参考に「宿題を面倒がる子どもをやる気にさせる一言」をご紹介します。

【1】「ママのアイロンかけとどっちが先に終わるかな？」と競争をけしかける。「『ママはトイレ掃除するから、早くできたほうが勝ちね』と持ちかけると、負けず嫌いの息子は必死でやります！」（30代女性）というように、ゲーム感覚でペースに巻き込むと、とたんにスタートダッシュに拍車がかかる子は少なくないようです。たまにはわざと負けてやり、達成感を味わわせてあげましょう。

【2】「宿題したら、アイス食べようか」とご褒美でつる。「『いつまでもやらない子は、おやつ抜きだよ』と脅す」（20代女性）というように、食べ物を武器にしてしまうのも、子どもを上手に操作するには手っ取り早い方法でしょう。ただし、あまり頻繁に使うと「宿題すれば好きなおやつをもらえる」という図式ができあがり、要求がエスカレートしかねないので、ほどほどにしておいたほうがよさそうです。

【3】「いつもちゃんと宿題しててエライね」と先に褒めてしまう。「『本当に勉強頑張ってるね。おかあさんもうれしいよ！』と笑顔で先制」（30代女性）というように、「ちゃんとやること」を前提に誘導し、逃げ場をなくしてしまうのもいいでしょう。始める様子がなかったら、「もうやっちゃうんだ、さすがだねー！」などと声をかけて、明るくプレッシャーをかけてしまうのも手です。

【4】「終わったら、夜ご飯までテレビ見ていいよ」と条件を提示する。「『今やっちゃうと、あと一時間はゲームできるよねえ』とつぶやく」（30代女性）というように、すぐ目の前に好きなことをチラつかせると、わが子のエンジンもかかりやすくなりそうです。「今月いっぱい約束通りにできたら、次の連休は遊園地に行こうか」など、少し長いスパンの目標を立ててみるのもいいでしょう。

【5】「ねえ、どんな宿題かママに見せて」と自然に勉強モードに導く。「『今日は何の問題なの？』と会話の流れで意識を向ける」（20代女性）というように、「勉強しなさい」と正面から攻めるのではなく、さりげなく机に向かうよう仕向ける手もあります。母親が関心を寄せていることがわかると、子どもも「やらなきゃ」と改めて自覚してくれるかもしれません。

【6】「とりあえず一問だけ解いてみようよ」と手をつけさせる。「うちの子は一度やりかけると気になるタイプなので、着手させればあとはスムーズ」（30代女性）というように、まずはひとつをクリアさせて、その先へ促してあげる方法です。単に「やってね」というスタンスではなく、励ましながら背中を押してあげると、徐々にでも気持ちが乗ってくるかもしれません。

【7】「どうしてしないのかな？」と理由を尋ねる。「『宿題するのって、やっぱり大変？』などと聞いてみる」（40代女性）というように、やる気にならない根本的な原因を探れば、対策を立てやすいかもしれません。責めるような口調では逆効果なので、わが子の気持ちに寄り添って、相談にのるようなトーンで話に耳を傾けましょう。

【8】「こんな難しい勉強してるなんてスゴイ！」と持ち上げる。「問題をチラッと見て、『えー、こんなのわかるんだ！』と驚いてみせる」（30代女性）というように、机に向かったものの一向に進まないときは、おだてて後押しするのもひとつの手です。とにかく大げさなくらい褒めたたえれば、気分がよくなって、前向きに取り組んでくれるかもしれません。

【9】「宿題しないと、自分が困るんだよ」と諭す。「『なんで家でも勉強しなきゃいけないんだと思う？』と質問して、真剣に考えさせる」（30代女性）というように、宿題の意義について親子で話し合ってみるのもいいでしょう。自分が学校の授業についていけずに苦労した経験を語ると、リアリティがあって、子どもの心に響くかもしれません。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

5月分の会費引き落としは4月28日（金）です。よろしくお願いいたします。

（注）休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。*最近 教室からお迎えの電話をする子で、電話代を置いていかない子がいます。大家さんから電話代が足りないと苦情がありました。お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。

